

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。
読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和6年度共通テストについては、昨年度までに実施した共通テストの結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、それらの能力を様々な方法で問うことができるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のように、概要や要点を把握することに加えて、推測したり、事実と意見を整理したりしながら読む問題、第3問のように、イラストなどの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のように、複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力・判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の6つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間を含む）は10、総解答数49、配点2～3点という構成内容で出題した。本年度の受験者数は449,328人で、昨年度実施した共通テストの

「英語（リーディング）」受験者数463,985人より若干減少したが、例年同様に全科目中で最も多かった。平均点は昨年度の「英語（リーディング）」53.81点（100点満点）より低下し51.54点（100点満点）であった。標準偏差は19.94で、受験者の得点が広い範囲で分散していた。難易度及び得点状況の観点から今回の試験はおおむね適切なレベルであったと言える。また、試験の信頼性、受験者の能力を識別する識別力も高く、全体的にバランスのとれた標準的な問題であった。

第1問 Aは、簡単な語句や平易で短い文で書かれている文章を読み、情報を理解する力を測る。アメリカに留学中、学校が主催する国際フェアのイベントに関するチラシに書かれた情報を読み取る問題である。問1は、無料でイベントに参加するためにすべきこと、問2はイベントでできる活動を読み取る問題である。昨年度は複数の箇条書の情報を比較・整理しながら読むことを想定した出題だったが、今回はチラシを読んで目的に合った情報を探し読みすることを想定する出題とした。Bは、交換留学先のアメリカで日帰りの小旅行のために用意された3つのツアーについての文章を読み、それぞれのツアーの相違点や類似点を把握し、情報を理解する能力を測る。正答率の高いものの識別力も比較的高い問題が多かった。

第2問 Aは、イギリスの高等学校で見つけた、戦略ゲームクラブの特徴や部員のコメントが書かれたチラシを読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、事実や意見を整理したりする問題である。問1はクラブについて正しい情報を選択する問題、問2はクラブの活動として述べられていないものを選ぶ問題、問3・4はチラシから読み取れることを選択する問題、問5はチラシに書かれていることを基にこのクラブはどのような生徒に適しているのかを判断させる問題となっている。選択肢の記述内容が事実か意見かだけでなく、チラシに記載された情報を基に推論させる問題も含んでいる。Bは、アメリカに留学するために必要となる旅行保険プランについて、過去の留学生が書いた体験談を読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、事実と意見を整理したりする問題である。問1～問3は紹介されている保険プランについて正確な読み取りを要する。問4では事実と意見を意識しながら読むこと、問5では内容に基づいて書き手の思いを推測することが求められる。A、B共に事実と意見を意識しながら読むだけでなく、書かれていることを基に推測する判断力や思考力が求められる問題である。Aではイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。また、共に十分な識別力のある問題であった。

第3問 Aは、日本で参加したフォトラリーについてイギリス人が書いたブログを読んで概要を把握する力を測る問題である。問1では内容に基づいて該当する絵を選択し、問2ではブログへのコメントを選ぶことが求められる。Bは、南の島へのバーチャルツアーについて書かれた記事を読み解く問題で、問1では起こった出来事を時系列に並び替えること、問2では記事に書かれていないことが何かを判断することが求められる。問3では、本文に基づいて推論を導き出す力が問われている。A、B共にイギリス英語を用いており、どちらにも本文内容を基に推論することが求められる問題を含んでいた。

第4問 平易な英語で書かれた2つの素材を読んで、情報を理解して整理する力を問う。ここでは理想的な教室の構成要素に関する記事とアンケート調査の結果を読んで、英語クラブ室について話し合うためのメモを用意することをねらいとしている。問1～問3では、記事に書かれていることとアンケート結果を基に要点を整理する力が求められている。問4・5は今後話し合うべき項目に関して思考力と判断力を要する問題である。おおむね正答率も適切で十分識別力の高い問題が多く、問3は特に識別力が高い問題であった。

第5問 平易な英語で書かれた物語を読み、その概要を把握する力を問う。3名の友達（Maki, Takuya, Kasumi）が高等学校卒業後にそれぞれの進路に進むが、TakuyaとKasumiは今の自分たちがあるのはMakiのおかげであると認識し、久しぶりの再会がMakiにもこれからの人生を考えるき

っかけになることを描いた物語である。問題の設定は、この物語について発表をするためのメモを用意する目的で情報を整理するというものである。問1は物語で起こった出来事を時系列に並べさせることで物語の展開の理解度を問う内容である。問2・3は物語の詳細を見極める問題である。問4・5は物語の重要なシーンの解釈を解答するものであり、直接は述べられていないことを読み取る力を要する問題である。総じて、識別力が高い問題が多かったが、本文の語数が昨年比べて大幅に増加し、また登場人物が3名いてそれぞれの体験が絡み合った状態で書かれていたことで、全体的に難易度の高い問題となった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事を読んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点を捉えたり、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aは、時間の捉え方に関する記事を読み、発表のためのメモを作成する場面である。パラグラフごとの概要を掴んだり、本文の内容を基に、明示的には書かれていない情報を判断したりする力が求められている。Bは、チリペッパーの辛さについての記事を読み、プレゼンテーション用のスライドを完成させる問題である。問1はチリペッパーとワサビの比較をしてワサビの特徴を見極める問題である。問2・3ではチリペッパーの長所と短所を把握することが求められている。問4は本文に直接述べられていないが推測できる選択肢を選ぶ問題で、深い読解力が求められ難易度が高い問題となった。問5は発表のまとめとして適切なものを選択しスライドを完成させる問題である。総じて難易度が高めであった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

各方面からはおおむね肯定的なコメントが得られた。特に高等学校教科担当教員（以下「高校教員」という。）からは、「外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを評価するテストとして適切であった」、また「様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題や、複数のテキストを関連付ける問題、与えられた文章に対するコメントを考える問題、さらには、文章中の情報を統合して推論する問題など、コミュニケーションの受信者及び発信者としての思考力・判断力・表現力等を適切に測る出題となっており、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている」など、高い評価を得た。

教育研究団体からは、第3問Aについては「他の資料から情報を得ながら、問題文の理解を深めるような形式は好ましいと思われる」、第5問では「英文自体が体温を感じるものであり、今後もこのような英文が扱われることを期待したい。幅広い読解力を育成する、という意味でもこのような文章を読む機会は受験者に是非もってもらいたい」など、肯定的なコメントを得た。

一方で、高校教員と教育研究団体から要望と提言がなされたのでここに言及する。高校教員からは、全体の分量が試験時間に比して過大であり、分量の適正化を検討するよう要望があった。読む量だけでなく、内容の複雑さも適正となるよう、今後の出題に向けて検討を続けていきたい。また教育研究団体からは、問題の形式や選択肢の内容理解の負荷と、設問の難易度とのバランスを考慮し、考える時間を念頭において思考力を測る試験問題に改善するようとの指摘を受けた。日常生活においては、目的に応じた読み方が求められるため、より思考力・判断力・表現力等を測ることができる質の高い問題を作成することが課題となっている。共通テストでは、それぞれの場面設定とタスクに応じて読む目的を明確にし、読んだことの概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることで、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力とともに思考力・判断力・表現力等を測定する出題が求められていることを強調したい。

4 ま と め

「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。共通テストにおいて「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎力となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを重視し、一方で大問ごとにCEFRのA1からB1レベルまで難易度を設定し、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。昨年度よりも平均点は下がったものの得点の分布はなだらかで広く、各設問は高い識別力があることも示された。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実的な場面に即したリーディング問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。また、テストにおいてたとえ同じ力を測る場合でも、その方法は多岐にわたる。受験者には日ごろから様々なタイプの英文に触れ、そこで得た情報を理解するだけでなく整理し活用しながら、目的や場面に応じた問いかけに柔軟に対応できるリーディングの力を付けることを意識してほしい。本部会のそのような理念が教育現場に良い波及効果をもたらし、英語のコミュニケーション能力育成に役立てることができれば幸いである。